

力作がそろった松尾クリニックの患者さんたちの作品展



# 創造の喜びが 闘病の励みに

八尾・松尾クリニック

## 通院患者が作品展

創作活動が闘病生活の励みになれば」と、八尾市光町二の市文化会館三階展示室で八日、同市東本町三の松尾クリニック(松尾美由起院長)に通院する患者さんらによる「みんなの作品展」がはじまり、家族や仲間たちでにぎわっている。九日も午前十時から午後五時まで展示される。

### 七宝焼、書道、手芸…

# 56人が170点

市文化会館で

松尾クリニックでは、診療時間以外に患者の日常生活を指導し、病気に対する不安を少しでもやわらげてもらおうと、六年前に患者の会「松樹会」(現在、二百八十人)を結成。患者とスタッフが交流し、病後のリハビリを目的にした七宝焼、書道、手芸などの教室を開催。昨年からは演劇活動にも取り組んで劇団「松ぼっくり」を発足させ、公演も行っている。

展示会は、家族やスタッフの自信作を公開すること、患者らに生きがいを持つて病気を闘ってもらおうと、昨年、初めて開催した。

今年七宝焼のプローチやネックレス、書、押し絵、編み物、パッチワーク、手芸などの教室の作品に加え、洋画、写真、欧風刺しゅう、俳画、木彫りといった趣味の作品まで百七十点がズラリ。出品者は松

樹会会長の川崎鉄夫さんら五十六人にのぼる。

どの作品も完成度の高いのばかり。展示会を設営したクリニックのスタッフやボランティアらは「この展示会が励みになって作品づくりが力が入り、患者さんの生きがいになっていくようです。それに作品を通して患者さんの意外な側面も見ることができるとも思います」と話している。